

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170102582		
法人名	医療法人 稲葉会		
事業所名	芥見グループホーム		
所在地	岐阜市岩田東3丁目277番地1		
自己評価作成日	令和3年10月5日	評価結果市町村受理日	令和3年12月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kairokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=2170102582-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	令和3年10月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・平屋造りの2ユニットで、渡り廊下でつながっており、自由に行き来できます 北側の居室でも光が入るように天窓があり、明るいです ・畑や花壇があり季節ごとに野菜や花と一緒に育てています ・母体は芥見診療所です 訪問診療があり、医療との連携が整っています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は住宅街の一角にあり、周辺には商業施設や大型薬局等があり、利便性の良い地にある。代表と管理者は、働き易い職場環境作りに努め、子育て中の職員であっても、都合に寄っては職場に子どもを連れて来ることも可能としている。また、職員のメンタルケアも行いながら、第三者による相談体制もある。職員は、利用者一人ひとりの残存能力を活かし、自己決定を受け止め、笑顔で暮らせるよう「優しさを一人一人に」を合い言葉に、日々、支援に努めている。看取り介護では、医療と福祉の両輪で一丸となって支援し、利用者と家族の安心と満足のおいサービス提供に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の・利用者本位・優しい心・笑顔・地域との交流を職員室に掲示し、常に職員が把握し穏やかに過ごせるよう相談し実践しています	ミーティングルームや職員室の目につく場所に理念を掲示し、職員の意識化を図っている。また、3ヶ月毎に、各部署で理念に基づいた目標を立て、日々の支援を振り返りながら実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入っており、地域の情報を把握しています 回覧板は利用者と一緒に持って行き挨拶しています	自治会に加入しており、以前は、自治会行事やイベントにも参加していた。現在は交流を自粛することが多いが、散歩中には、住民と挨拶を交わしている。隣家の庭でキンカンが実った時に摘み取りをさせてもらったり、近隣からの野菜の差し入れもある。	新型コロナウイルスの収束後には、地域行事や防災訓練の参加等、地域との関わりを今まで以上に積極的のもたれることに期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	メイト通信に参加させて頂いています 包括主催のステップアップ研修の受け入れをしています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染予防の為、職員のみで開催をしている 事故報告については家族に直接報告しています	運営推進会議は書面会議とし、職員のみで開催している。事業所の活動や行事予定、利用者状況、ヒヤリハットや事故報告、新型コロナ感染予防対策等についてまとめ、文書を関係者に送付している。意見や要望はFAXで受けている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者、包括支援センターの方に、運営推進会議に出席していただき、意見や提案を頂いています	行政担当者から、新型コロナ最新情報をFAXやメールで受けている。日頃から、地域包括支援センターの「ほっとメイト会」とも情報交換を行い、サービスの取り組みや実情を伝え、相談や助言を受けながら、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを実践しています 安全上、やむを得ない場合については、具体例を挙げ職員間で話し合っています 日中は施錠しない為、自由に出入り出来ます 介助中は安全な対応で見守りしています	身体拘束等適正化委員会を3ヶ月毎に開催している。定期的に委員会の中で研修会を実施し、個々に自己チェックも行っている。また、不適切ケアはないか、言葉や態度による拘束をしていないかを話し合い、マニュアルの見直しや疑似体験を行うなど、拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束研修にて虐待防止について学び防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	会議にて伝達する事で、職員の理解や知識を身につけています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に基づき、利用者、家族に詳しく説明し、疑問等に関し十分な説明、対応をする事で理解を頂き同意を得ています改定の際は同意書を頂いています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からの希望や要望はいつでも話を傾聴しています リモート面会の際に家族様の要望や話を伺っています	現在、面会を制限している為、家族と対面して意見を聞くことは難しいが、リモートによる面会やホーム新聞の発行で利用者の暮らしぶりを報告している。敬老会で、お気に入りの帽子やネクタイを着けて正装写真を撮り、家族に往復はがきで送っている。家族から喜びの返事が届き、受け取った利用者の笑顔につながっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から代表との意見交換を行っており管理者が現場に入る事で、管理者と職員の話しやすい環境作りをしています	管理者は、日頃から代表やリーダーと意見交換をしている。日々、介護現場に入り、職員の意見や要望を聞きながら、信頼関係を築いている。また、職員それぞれの家庭環境を把握し、子育てをしながらでも、働き易いよう配慮し、月に一度、外部講師によるメンタルケアの時間も設けている。	現在は、会議などの開催も難しい状況であるが、外部評価に向けた自己評価を全職員が関わりを持てる工夫をし、やりがいのある職場環境作りに繋がることに期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の職員の事情を把握し、各自が向上できるよう研修への参加をすすめて、又管理者や職員の考えを聞き、やりがいのある職場環境に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員ひとりひとりの心のケア、相談をする時間があります		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東部地区のほっとメイト会に参加し、情報収集や意見交換、相談をしながらサービスの向上につながるようになっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居契約時に、どのように過ごしたいか、過ごしてもらいたいかなどを伺い、安心した生活が送れるように努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記と同じように家族からの要望等を聞き信頼を得るよう努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	予約や入居時に話をする中で、家族が安心できる支援を検討し話をしています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事の準備、掃除等、個々の利用者の得意分野を見つけ一緒に取り組む事で支え合いながら生活しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には、ホームからの新聞や電話で様子を伝え、家族にしか出来ない事は協力して頂いています 行事にもなるべく参加して頂き、家族との絆を大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はリモートでの面会をしています 又、敬老会では家族より手紙を頂き、関係が途切れないような工夫をしています	感染予防対策として、ユニット間の交流や外出を控えている。家族との対面での面会は難しいが、ガラス越しの面会やリモート面会を行っている。また、往復手紙を使った利用者と家族のやり取りを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の関わりの中で利用者の意向を把握しています 本人の意思選択を尊重し、個別ケアをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も家族の相談に応じ、その都度対応しながらお付き合いを大切にするよう努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、利用者の思いを把握しています 困難な人は、表情や動きを観察し、家族からも情報を得るようにしています 生活記録、申し送りで情報を共有し統一したケアを行っています	日々の暮らしの中で、利用者の行動や表情、介助時の会話等、新たに知り得た情報は記録に残し、職員間で共有している。意思疎通が困難な場合は、家族の情報を得ながら、わずかな反応や仕草からも見逃さないよう心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族からの生活歴や性格等の情報を取り入れ全職員が把握できるように努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の様子や、知り得た情報を生活記録や申し送りに残す事で、職員同士が共有し同じ対応が出来るようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方について常に相談しそれぞれの意見も参考にしています 気付いた事やアイデアをすぐに話し合える環境があります	職員は、利用者2名ずつを担当し、サービス担当者会議で話し合いながら、課題点をまとめている。管理者とケアマネジャーは、家族の意見や要望を聞き、介護記録や個人チェック表、それぞれの意見を参考にしながら、計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々のケアプラン経過記録、生活記録を記入し職員間で情報を共有しています 記録を参考にすると共に、各棟会議で話し合いの場を設け、介護計画の見直しをしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の希望、又職員の要望もあり、買物、病院受診等の支援をしています 気分転換に、外出や、買物へ出かけ柔軟な支援に心掛けています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に加入しており、校区内で行われるお神輿の見学、近くのスーパーやドラッグストアへ散歩をしながら買物したり、ホームの近くを散歩して近所の方との触れ合いを心掛けています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	特に外部の受診に関して、かかりつけ医には文章で状態を伝えるようにしています	かかりつけ医は、利用者・家族が選択をしている。専門医や精神科への受診は家族に依頼しているが、状況によっては、職員も同行し情報を共有している。また、常に母体の診療所と連携し、適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師に連絡を取り合い、体調不良や薬の服用についても、ファクスにて相談し対応しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には、相談員との情報交換を密にし、本人、家族が安心出来るような対応を行っています また早期退院が出来るように医療機関との連携を図り、退院後の対応も指示を受けながら行っています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調の変化のあった方は常に主治医に報告するようにしています 終末期のあり方については、主治医、家族、職員をまじえて話しをします	重度化や終末期に関する指針があり、看取り支援にも取り組んでいる。感染予防対策をした上で、家族の立ち会いの下、看取り支援を実施し、家族の思いに寄り添いグリーフケアも行っている。今後、看取り時に家族が泊まれる部屋を増設予定である	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時は速やかに主治医へ連絡し指示を受けながら対応しています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した訓練を行っています 災害食作りも毎年行っています	コロナ禍にある為、事業所のみで災害訓練を行っている。夜間を想定し、初期消火や避難誘導、災害食作りも実施している。ウォーターサーバーの設置や備蓄品の整備、地震対策としてはロッカーや書籍戸棚の固定等を行い、居室の暖簾は、防災スプレーで防災処理をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念を忘れず、個々の人格を尊重した声かけを行い、カーテンや暖簾でプライバシーを損ねないようにしています	職員は、基本的な人権、利用者の誇りやプライドを尊重し、一人ひとりの個性を受け止めながら、対応している。また、利用者の自己決定を大切に、排泄や入浴介助、更衣等では羞恥心に配慮して支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃からコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築いていく事で希望や、思いを伝えやすく、自己決定できるような声かけをしています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や心情に合わせた対応を心掛けています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びや、身だしなみ、お化粧品等、自己決定が出来るように働きかけています 敬老会ではおしゃれをして写真を撮りました		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立には旬の野菜を取り入れ、味付けや簡単な料理は利用者も手伝っています 洗いのや、食器、お盆拭きは積極的に行って頂いています	食材の配送サービスを利用し、専門の調理士が調理したり、職員が交代で食事作りを行っている。自家菜園の野菜や地域住民の差し入れ等も使用しながら、利用者も出来ることに関わっている。また、梅シロップや梅ジャム作り、五平餅作りなど、皆でおやつ作りも楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量を記録に残し、食事の際のお茶も摂取出来ているか確認しています 水分制限のある方は一回の食事での水分量を考えるなど、個々に合わせた調理方法を工夫しながら支援しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きの声掛けをし出来ないところは援助しています 歯磨き困難な方は、スポンジや舌用のブラシを使用して口腔ケアをしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせて、日中はトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らし、自立に向けた支援をしています	利用者の排泄パターンを把握し、トイレでの排泄が習慣となるよう支援している。夜間は転倒予防の為、ポータブルトイレを使用する人もある。利用者の状態に合わせて、排泄用品を使い分ける事で、本人負担の費用軽減に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の方に運動、散歩、腹部周りのマッサージをし排泄を促しています 記録に残すことで排便の調節ができています		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は何時でも入れるように準備しています 汚染の場合や、家族との外出など、個々に沿った支援をしています	入浴は週2回を基本としているが、排泄の汚染時に、すぐ使用出来るよう毎日準備している。入浴の順番や湯温は希望を聞きながら、季節のゆず湯や菖蒲湯等、利用者が入浴を楽しめるよう工夫している。好みのシャンプーの持ち込みも可能としている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターン、生活パターンを把握し、日中横になり休んで頂く方もみえます		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員がいつでも薬の内容を確認できるようにしています 薬の準備は訪問診療で話したことを申し送り、また職員2人以上による薬の確認をしています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味や役割を見つけ、その人らしい生活が送れるように支援していきます		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常はホームの庭か周辺を散歩しています コロナ感染防止の為、病院以外への外出はしていません 変わりにホーム内で楽しんでもらえるよう、おやつレクを増やし楽しんで頂いています	以前は、花見やイチゴ狩り等に出かけていたが、現在は病院受診以外の外出を自粛している。事業所の庭や周辺の散歩に留め、プランターの花や野菜の成長を見ながら外気に触れられるよう工夫している。また、ホーム内で楽しめるレクリエーション等で、職員は、知恵を出し合いながら、利用者の楽しみに繋げている。	

岐阜県 芥見グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本はホームでの預かりをしていますが、家族と相談し、千円程度持たれ安心される方もみえます		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があったとき電話を掛けるように支援しています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関に色とりどりの花を植えたりしています 談話室にも季節の花をかざり、季節を感じられるようにしています 食事以外は固定された場所を作らず、居心地良く過ごせる場所に移動し過ごしています	共用スペースは広く、大きな窓から明るい自然光が入る。野の花やハロウィンの共同作品を飾り、季節を感じられるよう工夫している。利用者は、それぞれが好きな場所で、新聞や本を読んだり、テレビを見ながら穏やかに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士が近くで座れるよう配慮しており、会話や会話やレクリエーションを楽しんだり一緒に洗濯たたみ等されています また雑誌や新聞を見たり等、個々のペースで過ごせるような環境作りをしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には個々の暖簾をかけ、花や見やすいカレンダーを飾っています また入居時にはなるべく使い慣れたものをもってきて頂くようにしています	居室にはベットが備えられ、使い慣れた椅子やタンスを持ち込み、写真や手作り作品等を飾っている。好みの暖簾をかけ、防火スプレーで防災対策もしている。希望によっては、寝具一式をレンタルすることもできる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	危険のないように家具の配置を工夫し、身体状況に応じて安全に移動ができるよう配慮しています		